

## 自治体戦略2040構想研究会

# 「わからない」からはじまる空間管理 —国土形成に保険的な発想を—

金沢大学人間社会研究域人間科学系・准教授  
特定非営利活動法人国土利用再編研究所・理事長  
博士(農学) 林 直樹



# きょうの講演の現場と着眼点

- ・現場：主に山間地（平地の村や近郊の姿を先取り）
- ・着眼点：地域の維持に関する長期的な問いについて考える。

|        |                                                       |
|--------|-------------------------------------------------------|
| 短期的な問い | 現状の外部支援が続くことを前提に、助け合いの強化や新技術の導入などで地域を維持する方法を考えましょう。   |
| 長期的な問い | 外部支援が大きく減少することを前提に、少ない外部支援でも維持できるような「新しい地域の姿」を考えましょう。 |

「2040年のことはわからない」とすると、どうなるか。

「こうなりたい」だけでなく「最悪を避ける保険」も必要。



# 誇張された危機①: 村が消えると自然が破壊される(?)

(誇張された危機の一例)

農地が一旦荒廃し、生産機能のみならず防災や景観形成機能などが失われた場合、これを復元することは容易ではなく、いわんや**廃村後の土地荒廃は、「自然への回帰」などとはほど遠い現実**がある。

(出典)日本学術会議『地球環境・人間生活にかかわる農業及び森林の多面的な機能の評価について(答申)(平成13年11月)』2001

・日本の土地は**人が管理しなくなると森林に変化**することが多い。

(参考)沼田眞・岩瀬徹『図解 日本の植生』講談社、2002



## 誇張された危機②: 上流の村が消えると下流は大洪水(？)

山間農業地域の農地が消えても、下流で大洪水が多発するようなことは考えにくい。

### (1) 全国の農地の洪水防止機能

・三菱総合研究所試算(機能ゼロ基準): 3兆4988億円／年

三菱総合研究所(2001)『地球環境・人間生活にかかわる農業及び森林の多面的な機能の評価に関する調査研究報告書』(日本学術会議(2001)『地球環境・人間生活にかかわる農業及び森林の多面的な機能の評価について(答申)』の資料)

・林試算(森林基準): 373億円／年

林直樹『土地利用の変化が農林業の多面的機能に与える影響(電力中央研究所報告、研究報告:Y11020)』電力中央研究所、2012

(2) 2009年度の防災関連予算: 2兆1702億円



# 第1章 保険的なむらづくり

- 田畑管理
- 人工林管理
- コミュニティー
- 文化的な技術





現状維持



保険的な管理(放牧)



放棄

- ・**保険的な管理**: 耕地としての土地の潜在力を低コストで維持。  
例: ウシを放牧し、雑草地として維持する。  
→ 比較的短期間で復旧可能 → 保険的な田畑
- ・**通勤耕作**という形を考えてみる。





- ・粗放的な針広混交林（針葉樹と広葉樹が混ざった森林）
  - ・表土の保全、生物多様性の向上に貢献。
- 表土健在→いかようにも改変可能→保険的な人工林



## コミュニティ：小松市西俣

- ・定住者は10人と少々、最年少は70歳代なかば。
- ・転出した人々やその子ども世代が草刈りなどの貴重な戦力に。
- ・無居住化しても、それなりに維持される可能性が高い(保険的)。  
→土地が荒廃しなければ、将来的な再居住も可能。





## 無居住だが田畑が維持されている例：北秋田市（旧）小摩当

秋田県北秋田市。1972年、ふもとの小学校跡地に移住。写真左側は跡地の耕地、右側は移住先（いずれも2015年の状態）。



参考：佐藤晃之輔『秋田・消えた村の記録』無明舎出版、1997



撤退の農村計画  
ISRR: Institute of Strategic Rural Reorganization



# 無居住からの再居住化の例：京都市左京区大原大見町



1973年、集団離村により無居住化したが、2008年、元住民の子孫が移住した。

参考：松崎篤洋・山口純・本間智希・川勝真一・北雄介「大見村における無住化集落再生活動の発足と展開—京都市北部における無住化集落再生活動（その2）—」『日本建築学会大会学術講演梗概集』7-8、2015

→ただし、冬期は無居住（関係者からの聞き取り）。



撤退の農村計画  
ISRR: Institute of Strategic Rural Reorganization

## 外部旧住民を長く維持することの難しさ

- ・離村した人々（離村一世）を「外部旧住民」としてつなぎとめておくことは難しくない。
- ・離村した人々の子ども・孫の世代（離村二世・離村三世）を「外部旧住民」としてつなぎとめておくことは容易ではない。
  - ・文化的な技術（民俗知）といった集落の良さを伝える。
  - ・帰属意識の維持に資するようなお祭りを実施する。

（例）西俣の場合、メンバーは、屋号（＋そのイエの中心人物との親戚関係）が書かれた名札をつけている。



- ・田畑などの管理を考慮すると、外部旧住民は当該集落に近いところに住むことが望ましい。
- ・「近くのマチ」を確実に守ることも大切。  
→西俣の場合、小松市の市街地との距離は車で約30分（片道）。
- ・全国の農業集落の96.4%（＝133,282／138,256）は、市町村役場まで30分未満。

出典：農林水産省『2015年農林業センサス（第7巻農山村地域調査報告書）』2016





山野の恵みを持続的に引き出す「文化的な技術」(民俗知)

人さえ住んでいれば自動的に保持されるということではない。

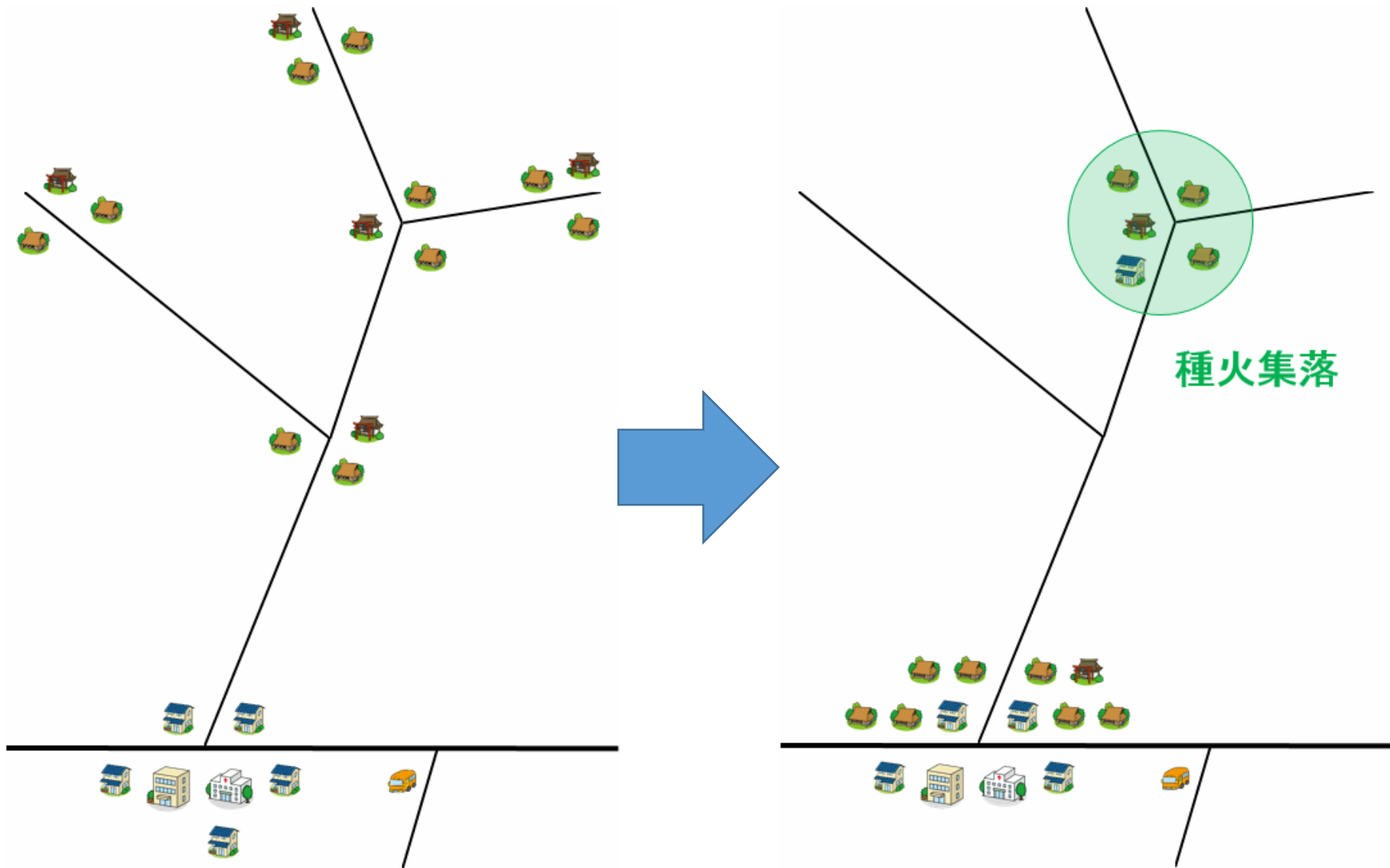
万が一の長期的な食料不足、エネルギー不足に対する備え(国民的な保険)とみなすことができる。



撮影: 永松敦氏 (許可を得て使用しています)



## 備考：少ないマンパワーで文化的な技術を継承



遺伝子資源減少対策としても効果的

## 第2章 自主再建型移転

- ・自主再建型移転という選択肢
- ・自主再建型移転の移住者は悲慘(？)
- ・高齢者の気持ちを無視(？)





- ・ダム建設などのための集落移転
- ・防災のための集落移転
- ・過疎緩和のための集落移転(自主再建型移転)

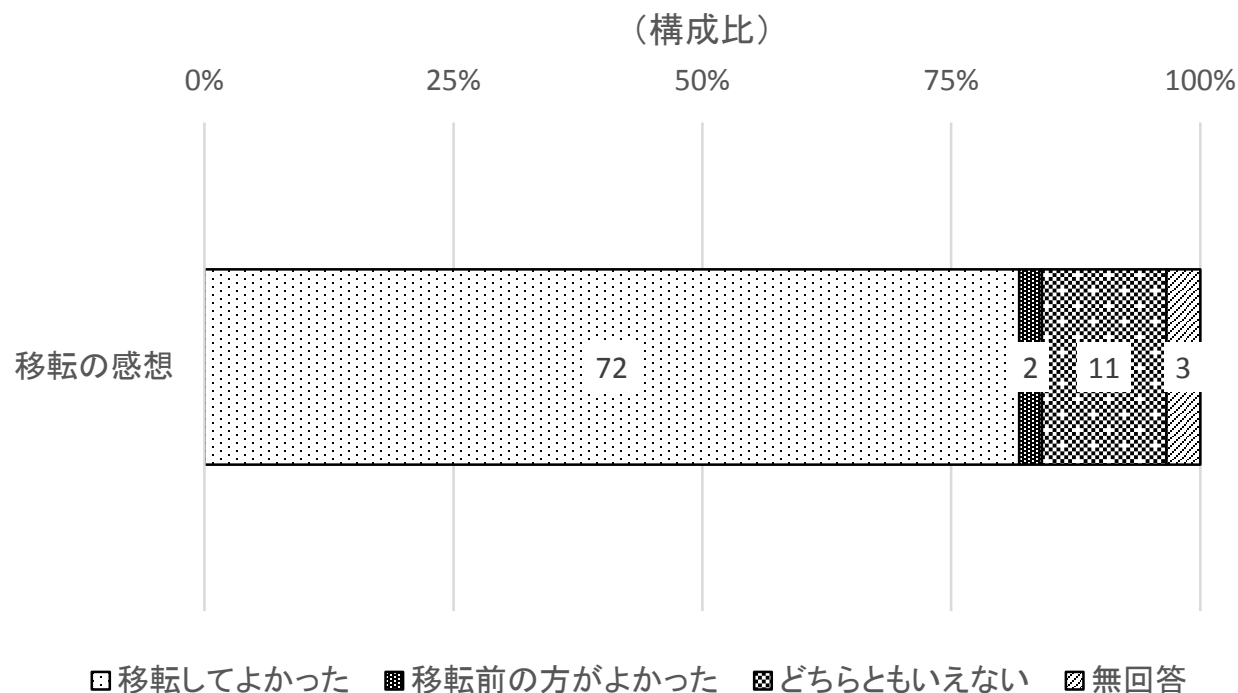
自主再建型移転:

- ・強制移住は考えにくい
- ・選択肢のひとつ
- ・過疎地域集落再編整備事業



# 自主再建型移転の移住者は悲慘(?)①

## 集落移転の感想(グラフ内の数字は回答数)



出典:総務省自治行政局過疎対策室『過疎地域等における集落再編成の新たなあり方に関する調査報告書(平成13年3月)』2001



## 自主再建型移転の移住者は悲慘(?)②

| よかった点                           | 複数回答(%) |
|---------------------------------|---------|
| 買い物や外出など、日常生活が便利になった            | 78.4    |
| 病院や福祉施設が近くなり、医療や福祉サービスが受けやすくなった | 72.7    |
| 自然災害や積雪などによる不安が少なくなった           | 53.4    |
| 学校が近くにあり、子どもの通学が楽になった           | 31.8    |
| 自分や家族の仕事がやりやすくなった               | 27.3    |
| 集落内の共同作業や役まわりなどが楽になった           | 23.9    |
| 人との交流や学習の機会が増えた                 | 20.5    |
| 公園、公民館、図書館など、公共施設が利用しやすくなった     | 19.3    |
| 収入・所得が増えた                       | 5.7     |
| 離れていた家族と一緒に住むようになった             | 5.7     |
| その他                             | 2.3     |

出典：総務省自治行政局過疎対策室『過疎地域等における集落再編成の新たなあり方に関する調査報告書(平成13年3月)』2001



## 自主再建型移転の移住者は悲慘(?)③

### 滋賀県米原市(旧伊吹町)太平寺集落の移転(2014年調査)

1964年、セメント会社の協力を得て、ふもとに集団で移転した。

移転先は家庭菜園のある落ち着いた場所。

移転した人から高い評価を受けている。

移転のあと、戸数が16から33に増えた。





# 自主再建型移転は高齢者の気持ちを無視(？)

- ・高齢者の多くは今の場所に住み続けたいと思っている。
- ・健康上の都合で「都市部の息子・娘の家や『施設』」に向かうことも珍しくない。
- ・環境の激変を伴うこともある。
  - ・土とのつながりが切れる
  - ・地縁が切れる
- ・自主再建型移転は、環境の変化が小さい。  
(自主再建型移転はむしろ高齢者のための事業)



## 附章 議論の準備

- 山間の小集落の現実とこれから
- 不毛な掛け声合戦に終止符を



# 山間の小集落の現実とこれから①:「不便」「寒い」(?)

高齢者に限定した場合、住民の当面の悩みは、次の3つに集約できることが多い。

- ① 買い物
- ② 通院・介護
- ③ 除雪(雪国の場合)

草刈り、獣害の問題も大きい。



## 山間の小集落の現実とこれから②:「貧しい」(?)

地域別の年間の所得:(農家)1経営体当たりの平均値

単位:千円／経営体・年

|            | 都市的<br>地域 | 平地農業<br>地域 | 中間農業<br>地域 | 山間農業<br>地域 |
|------------|-----------|------------|------------|------------|
| 農業所得       | 1,187     | 1,944      | 1,327      | 1,203      |
| 農業生産関係事業所得 | 17        | 11         | 20         | 13         |
| 農外所得       | 2,311     | 1,179      | 1,247      | 1,584      |
| 年金等の収入     | 1,843     | 1,880      | 2,063      | 2,052      |
| 総所得        | 5,358     | 5,014      | 4,657      | 4,852      |

農業生産関連事業:農産加工, 農家民宿, 農家レストラン, 観光農園, 市民農園など

出典:農林水産省『平成27年経営形態別経営統計(個別経営)』2017





## 山間の小集落の現実とこれから③:「荒れた土地」(?)

荒れた土地≡使われなくなって雑草・雑木に覆われた土地

(荒れた土地≠自然破壊)



人工林のなかの「荒れた土地」

≡ 林床の草木が消滅



## 山間の小集落の現実とこれから④: 無居住化する小集落

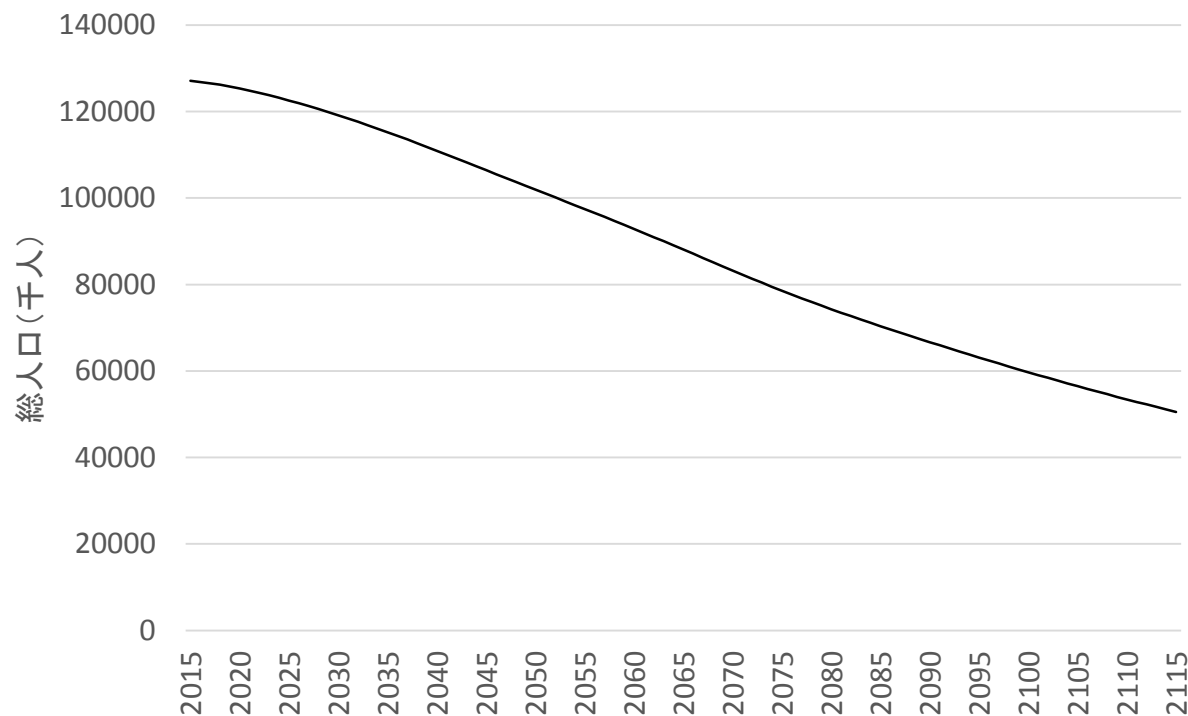
- ・「山間地」で平成22年以降に無居住化した集落の数は79にのぼるが、**そのうち61が「自然消滅」**である。

出典: 国土交通省・総務省『平成27年度過疎地域等条件不利地域における集落の現況把握調査報告書(平成28年3月)』2016

- ・廃虚だらけの「絵に描いたような廃村」はむしろ珍しい。
  - ・ふつうの集落と見分けがつかない。
  - ・深いやぶ＋森林に変化。



# 山間の小集落の現実とこれから⑤: 楽観は禁物



## 日本の総人口(出生中位・死亡中位)

国立社会保障・人口問題研究所『日本の将来推計人口(平成29年推計)』

[http://www.ipss.go.jp/pp-zenkoku/j/zenkoku2017/db\\_zenkoku2017/db\\_s\\_suikeikekka\\_1.html](http://www.ipss.go.jp/pp-zenkoku/j/zenkoku2017/db_zenkoku2017/db_s_suikeikekka_1.html)

「恵まれた過疎」から「厳しい過疎」へ



撤退の農村計画  
ISRR: Institute of Strategic Rural Reorganization

# 不毛な掛け声合戦に終止符を

× 個々の違いを無視して叫ぶ

→ 千差万別の現状を直視 → 複数の青写真から選ぶ

× 危機をあおる（増田レポート、限界集落、多面的機能など）

→ しっかり議論して現状維持への固執を弱める

→ 選択肢が増える

× 選択と集中のタブー化

→ それ自体は特別なことではない

- ・ 一農家の経営戦略
- ・ 集落の行事の簡素化（中止）
- ・ 小さな拠点づくり





# 考え方のちがい

| これまで                | これから                  |
|---------------------|-----------------------|
| 国の税収は増加する。          | 国の税収は減少する。            |
| 足りないなら、どこから引っ張ってくる。 | 足りないなら、がまんする。         |
| 足りないものを探す。          | あきらめるものを選ぶ。           |
| 効率を向上させる。           | 長期・広域的に効率を向上させる(保険)。  |
| とにかく守る。             | (現状が維持できないなら)潜在力を守る。  |
| 理想の姿を目指す。           | 選択肢(多様性)を減らさないことを考える。 |
| 合意形成は補助的。           | 合意形成がすべて。             |
| 目標はひとつ              | 思い込みを排した複数の青写真から選ぶ    |
| 計画論                 | 戦略論                   |

